

第2回 名古屋港魚釣り施設あり方検討委員会

議事概要

(1) 委員長挨拶

第1回の検討委員会では候補地の選定方針等について活発なご意見をいただきました。本日は現地を直接視察していただき、現地の状況をよく確認することができました。本日の委員会では魚介類調査を行う地点を絞り込みたい。現地の状況を勘案しながら、活発な意見をいただきたい。

(2) 議事

- ・ 第1回委員会結果の確認
- ・ 魚介類調査地の選定
- ・ 魚介類調査の方法
- ・ 今後の進め方

以上の項目について、了解された。なお、主な質問・意見は以下のとおり。

(3) 主な質問・意見

- ・ 漁業関係者にも配慮して検討を進めて欲しい。
- ・ 調査候補地の選定にあたり、潮通しについては、どのように考えているか。
⇒調査候補地の選定においては、潮通しの状況は把握できておらず、考慮していない。
今後実施する水質、底質の調査結果から、潮通しの状況について、ある程度確認できるものと考えている。
- ・ 調査候補地の判定（水域条件、安全面、整備面）について、優劣をつけた評価は行わないのか。
⇒魚介類調査地の選定においては、調査候補地について個々に適否の判定のみ行った。
今後、候補地の絞込みを行うにあたり、現地調査の結果も踏まえて相対的な評価を行っていく。
- ・ 安全面の判定項目である避難所についての判定はどのようなものか
⇒避難所は、調査候補地の近隣で各自自治体が避難所として位置づけている施設を確認し、調査候補地から当該施設までの、南海トラフ地震発生時に予想される津波到達時間内の避難可否を考慮した。

- ・ 港内視察で感じたが、名古屋港では生産基地と物流基地が別の地区に立地している。将来的に魚釣施設の利用者に港の機能を感じてもらうためには、それぞれに近接して施設整備ができるのが望ましい。
- ・ 各地点の調査については、可能な範囲でタイミング等調査条件をそろえることが望ましい。
- ・ 雨の後など、天候によって水質や底質が大きく変化することがあるため、調査時の天気にも配慮して欲しい。
- ・ 海底の環境（砂泥、岩場など）も魚釣施設にとって、重要な条件であると考えており、現地調査では確認を行なうのか。
⇒ダイバーによる観察調査を予定しており、可能な範囲で確認したい。
- ・ 現地調査を四季毎に行うが、結果を同一に扱うのではなく、釣り客の多い時期にウエイトをおいて評価したほうがよいと考える。
⇒評価の重み付けについては、季節ごとの釣果に限らず他の項目も含め、第3回検討委員会で検討していきたい。